

2015年2月18日 全6頁

FRB 銀行上級貸出担当者調査（2015年1月）

貸出基準はほぼ変わらず、大・中堅企業向けの借入需要が増加

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
シニアエコノミスト 土屋 貴裕

[要約]

- 2015年1月の調査によると、商工ローンの貸出基準はほぼ変わらず、前回の調査に比べ、価格条件または非価格条件を緩和した銀行は少なかった。借入需要は大・中堅企業向けが増加した。
- 商業用不動産ローンにおける貸出基準もほぼ変化がなかった。商業用不動産ローンの借入需要は増加した。
- 住宅ローンにおいては、消費者金融保護局（Consumer Financial Protection Bureau）の適格住宅ローン（QM：Qualified Mortgage）の規則を反映させ、住宅ローン市場に関するより詳細な情報を提供するために、住宅ローンの分類が修正及び拡大された。
- 大手銀行の中には、政府支援機関（GSE：Government-Sponsored Enterprise）適格を含む住宅ローンの基準を緩和した銀行があった。住宅ローンの借入需要に関しては、ほぼ変化なしとの回答が多数であった。
- 消費者ローンの貸出基準及び貸出条件はほぼ変わらなかった。一方、自動車及びクレジットカードローンの借入需要が増加したとの回答が大手銀行から若干あった。

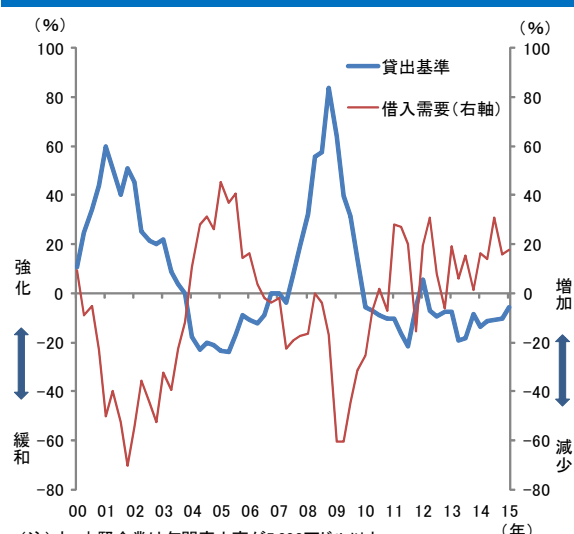
FRB（連邦準備制度理事会）は、米国で銀行業務を行う銀行を対象に1年に4回、銀行上級貸出担当者調査（Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices）を行っている。2015年1月の調査は、2014年10月から12月の3ヵ月間における銀行の企業向け及び一般向けローンの貸出基準、貸出条件、借入需要の変化を調査している。調査期間は、2014年12月30日から2015年1月13日までであり、米国銀行73行と、米国に支店を持つ外国の大手銀行23行が対象になった。全体的に貸出基準はほぼ変わらず、借入需要は大・中堅企業向けが増加したほか、自動車及びクレジットカードローンにおいて増加が見られた。また、2015年の経済の好転を踏まえた上で、大半の銀行は貸出の質が向上すると見込んでいる。

商工ローン

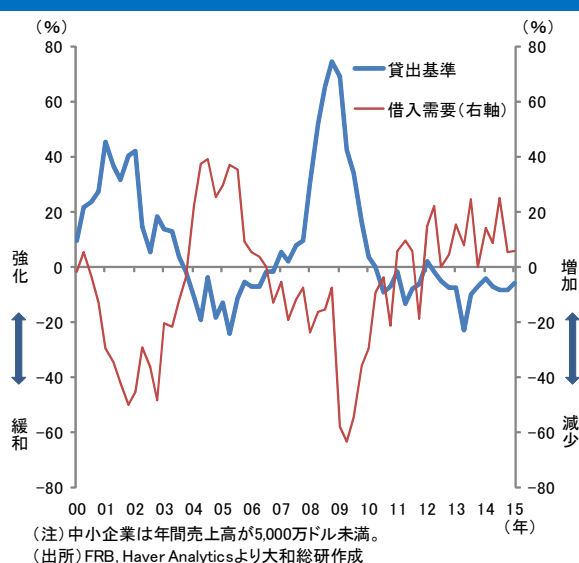
商工ローンの貸出基準にほぼ変わりはない。金利スプレッド、貸出枠などを緩和した銀行も若干あったが、価格条件を緩和した銀行は前回の調査より著しく減少した。非価格条件は概してほぼ変わらなかった。貸出基準を緩和した銀行の大半は、他の銀行やノンバンクとの競争激化により緩和を行ったと回答しているものの、経済見通しの好転、リスク許容度の増加などを理由として挙げる回答も僅かながらあった。一方、貸出基準を強化した銀行の半数は、法規制の改正、監督上の処分、会計基準の変更の影響に懸念を強め、一部では原油価格の急激な下落から石油・ガスセクターに対する懸念が挙げられた。

商工ローンの借入需要は、大・中堅企業の借入需要が増加したと回答した米国銀行があったほか、新規貸出の可能性や貸出条件、既存の貸出枠の拡大に関する企業からの照会が増加したとの回答もあった。大・中堅企業の借入需要の増加は、幅広い資金調達の実必要性からであり、特に、M&A、在庫、売掛金、工場・設備投資が関連している。中小企業の借入需要はほぼ変わらなかった。

大・中堅企業向け商工ローンの貸出基準及び借入需要



中小企業向け商工ローンの貸出基準及び借入需要

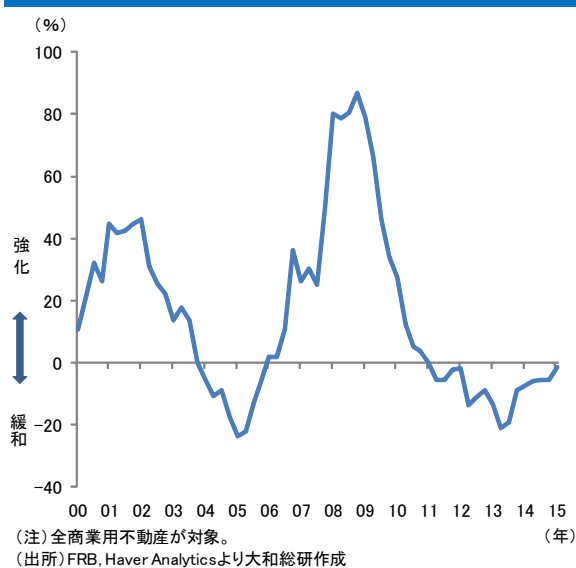


商業用不動産ローン

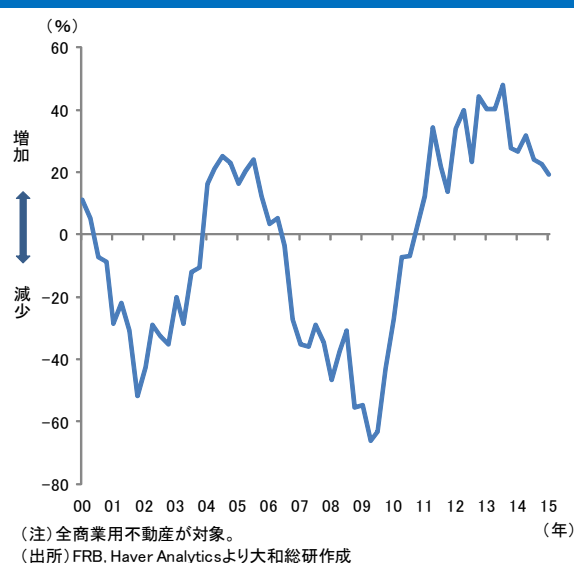
商業用不動産ローンの全3分野（建設及び土地開発、非農業用・非住宅用不動産物件、集合住宅物件）において、貸出基準にほぼ変化はなかった。過去数回の調査でも同様の回答が見られたが、商業用不動産ローンの全3分野に対する貸出基準を緩和した大手銀行があった。

商業用不動産ローンの借入需要に関しては、集合住宅物件への借入需要が増加したと回答した銀行があったほか、建設及び土地開発と非農業用・非住宅用不動産物件における借入需要増加を回答した銀行も若干あった。

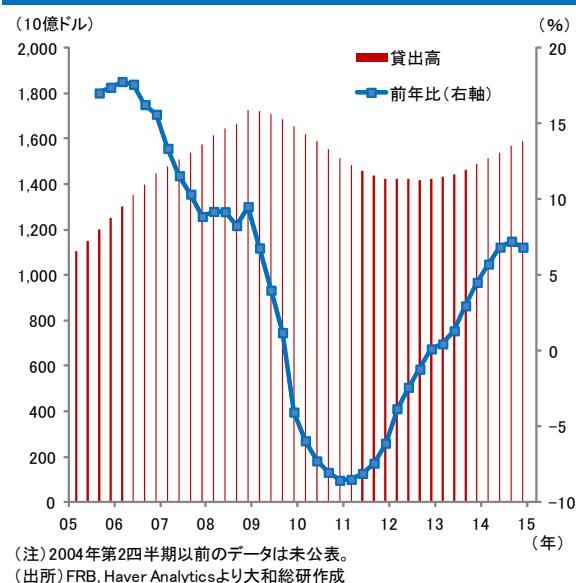
商業用不動産ローンの貸出基準



商業用不動産ローンの借入需要



商業用不動産ローンの貸出高及び前年比(全商業銀行)



商業用不動産価格の推移(前年比)



住宅ローン

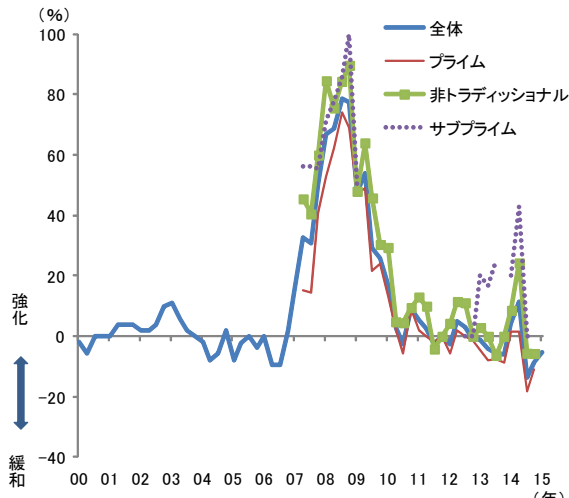
今回の調査より、消費者金融保護局（Consumer Financial Protection Bureau）の適格住宅ローン（QM: Qualified Mortgage）の規則を反映させ、住宅ローン市場に関するより詳細な情報を提供するために、分類が修正及び拡大された。住宅ローンの分類は以下の 7 つに分けられた。

- ① GSE 適格（GSE-eligible）：ファニー・メイやフレディ・マックといった政府支援機関（GSE: Government-Sponsored Enterprise）の貸出限度額などの保証基準を満たす住宅ローン
- ② 政府（government）：連邦住宅局（Federal Housing Administration）や退役軍人省（Department of Veterans Affairs）の政府機関によって保証されている住宅ローン、または農務省の住宅ローンプログラムの住宅ローン
- ③ QM 非ジャンボ・GSE 非適格（QM non-jumbo, non-GSE-eligible）：適格と判断され、ローン残高が貸出限度額以下であるものの、GSE の保証基準を満たしていない住宅ローン
- ④ QM ジャンボ（QM-jumbo）：適格と判断されているが、ローン残高が GSE の規定する貸出限度額以上の住宅ローン
- ⑤ 非 QM ジャンボ（non-QM jumbo）：非適格と判断され、ローン残高が GSE の規定する貸出限度額以上の住宅ローン
- ⑥ 非 QM 非ジャンボ（non-QM non-jumbo）：非適格と判断され、ローン残高が GSE の規定する貸出限度額以下の住宅ローン
- ⑦ サブプライム住宅ローン（subprime）：信用力が低い人向けの住宅ローン

大手銀行の中には、政府住宅ローン及びサブプライム住宅ローン以外の住宅ローンの基準を緩和した銀行があった。

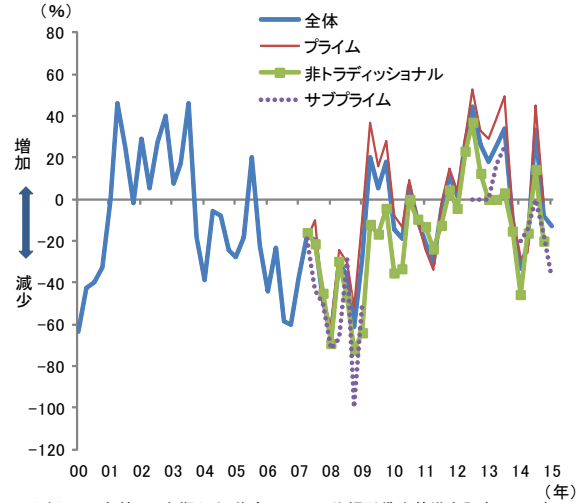
住宅ローンの借入需要に関しては、ほぼ変化なしとの回答が多数であったが、大半の分野において借入需要が低下したとの回答も若干あったほか、大手銀行の中には借入需要が増加したとの回答があった。貸出枠の基準を変更した銀行は少数であった。

住宅ローンの貸出基準



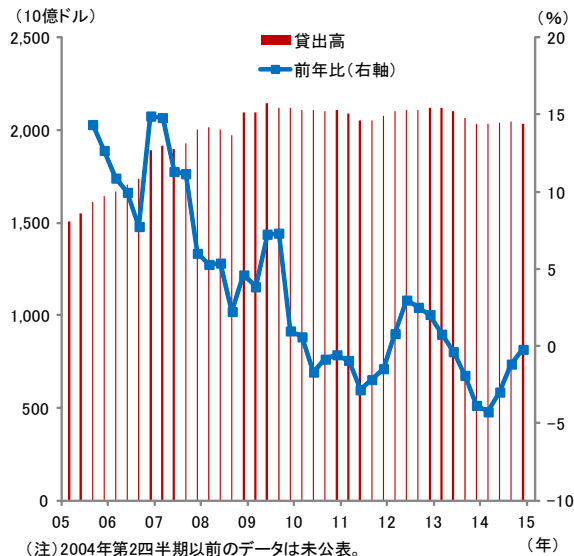
(注) 2007年第2四半期より、住宅ローンの分類別貸出基準を発表。2014年第4四半期からは、7つに分類。回答が3社以下の場合、データは未公表。
 (出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅ローンの借入需要



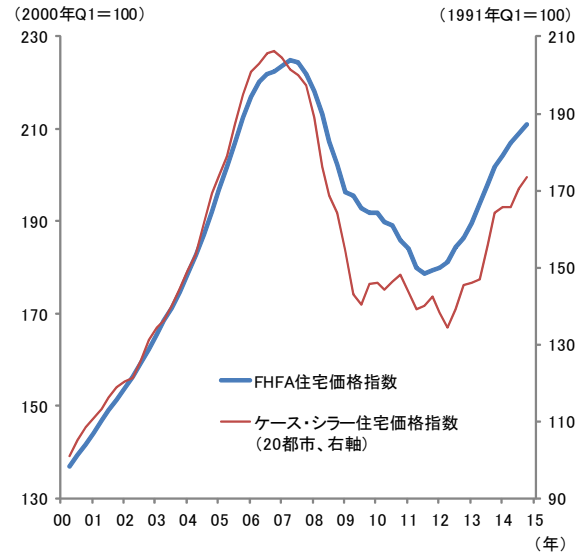
(注) 2007年第2四半期より、住宅ローンの分類別貸出基準を発表。2014年第4四半期からは、7つに分類。回答が3社以下の場合、データは未公表。
 (出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅ローンの貸出高及び前年比(全商業銀行)



(注) 2004年第2四半期以前のデータは未公表。
 (出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

住宅価格の推移



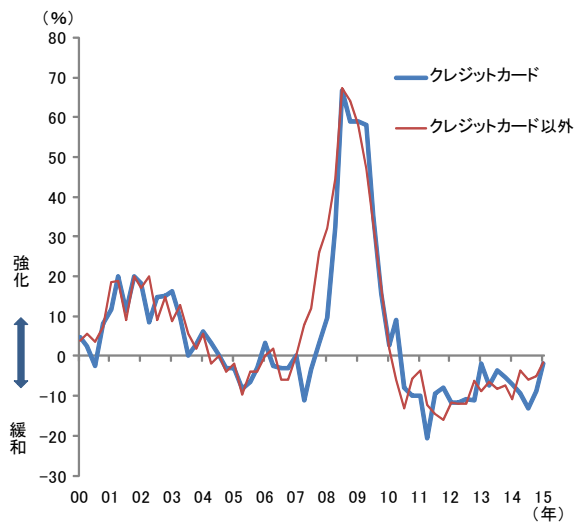
(出所) FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者ローン

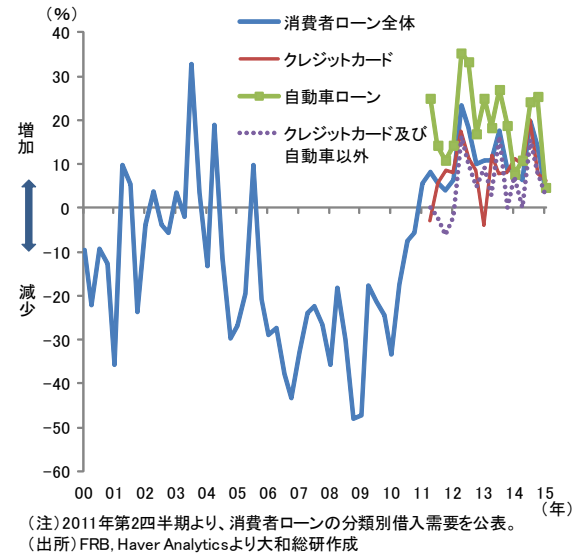
消費者ローンの貸出により前向きとなった大手銀行は少数であった。若干の銀行が自動車ローンの貸出基準を緩和した半面、クレジットカードローンやその他の消費者ローンの申請認可基準に関してはほぼ変化なしと回答した。また、クレジットカードローンの大半の条件もほぼ変化がなかった。自動車ローンまたは他の消費者ローンの条件を変更した銀行は非常に少数であったが、金利のスプレッドを縮小した銀行が多少あった。

消費者ローンの借入需要は、自動車ローンとクレジットカードローンについては増加したとの回答が大手銀行から若干あったものの、他の消費者ローンの借入需要はほぼ変化なかった。

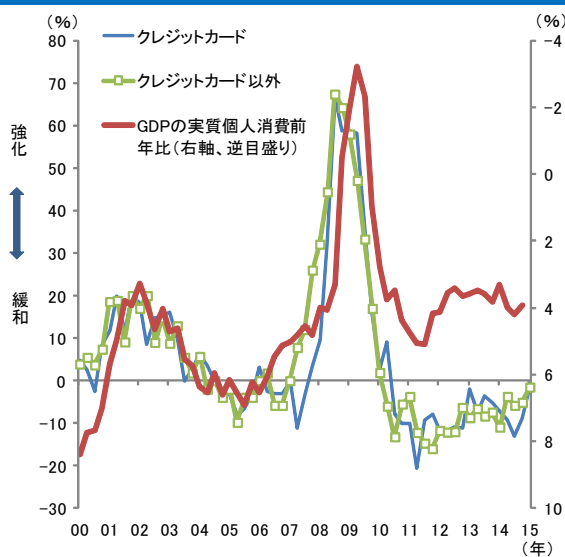
消費者ローンの貸出基準



消費者ローンの借入需要



消費者ローンの貸出基準及び個人消費



家計の負債残高の構成(住宅ローン除く)

